

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

伝統校として受け継いだ三丘スピリット（文武両道、自主自立、切磋琢磨）のもと、高い理想、深い叡智、重い使命を抱き社会に貢献する志を持った発想力豊かなグローバルリーダーを育てる学校。

- 1 自ら課題を発見し豊かな創造性と論理的思考力を持って解決策を探る力を育む。
- 2 社会の様々な事象に対して当事者意識を持ち、異文化共生の精神を理解した上で他者と協働できる人材を育てる。
- 3 確かな学力を育成し、併せて国内外で「ホンモノ」と出逢う教育機会を提供することにより、生徒が自らのキャリアを描く力を育む。
- 4 機動的な学校運営体制を一層充実させ、教職員の弛まぬ資質・能力の向上に取り組み、教育活動をはじめとする様々な活動の充実・活性化を図る学校。

2 中期的目標

- 1 自ら課題を発見し豊かな創造性と論理的思考力を持って解決策を探る力の育成
 - (1) 学校設定科目「Creative Solutions(以下)CS I II」の充実とSSH第4期指定に向けた取組の充実
 - ア 探究学習に関する高い授業満足度
「CS I」「CS II」満足度90%以上を維持 (R4:CS I 88%・CS II 88%、R5:CS I 94.8%・CS II 89.9%、R6:CS I 95.0%・CS II 90.0%)
 - イ SSH第4期指定に向けた校内体制の充実
「CS III」の新設と安定した運営体制の構築
 - (2) 生徒主体の活動を充実することにより自ら課題を発見し解決策を探る力を育成
 - ア 文化祭、体育祭等すべての生徒会主催行事及び部活動を生徒主体で企画・運営させることにより、課題に直面した時も自ら解決策を探る力を育成する
「文化祭、体育祭や部活動において生徒は自主的に活動している」(学校教育自己診断) 肯定率90%以上を維持 (R4:77.1%、R5:95.8%、R6:95.2%)
 - イ 教科指導を含む教育活動全般の中で三丘スピリットに謳われている「自主自立」の重要性を指導
「自主自立(自律)を尊重する伝統は活かされている」(学校教育自己診断) 肯定率85%以上を維持 (R4:81.5%、R5:85.0%、R6:85.7%)
 - ウ 生徒が主体的に運営する部活動を通じて課題を発見し協働して解決する力を育成
入部率90%以上を維持 (R4:96.5%、R5:102.0%、R6:102.0%)
 - エ 生徒主体の学校説明会を開催し参加者の高い満足度を得る
満足度90%以上を維持 (R4:96.0%、R5:98.0%、R6:98.0%)
- 2 社会の様々な事象に対して当事者意識を持ち、異文化共生の精神を理解した上で他者と協働できる人材の育成
 - (1) 異文化理解の基礎となる「4技能を育成する英語授業」の実践
 - ア 英語科教員が協働して教材を開発するなど、4技能を育成する英語授業を構築
「コミュニケーション等に必要な英語を学ぶ機会がある」(学校教育自己診断) 1,2年生肯定率80%以上を維持 (R4:80.0%、R5:82.3%、R6:86.1%)
 - イ フィリピン研修の実施と内容充実
 - ウ 諸外国から来日した高校生との交流など米国領事館や大阪観光局と連携した事業の実施と内容充実
 - (2) 社会の様々な事象に対して当事者意識を持つことをめざした教育の充実
 - ア 人権・環境・福祉等に関する教育の充実
「人権・環境・福祉について学習する機会がある」(学校教育自己診断) 肯定率80%以上を維持 (R4:62.9%、R5:62.6%、R6:86.4%)
 - イ 学校設定科目「CS I」指導内容の充実
心理的安全性や協働についての学習を深め、マルチプルインテリジェンスの理論を応用したグループ編成で協働できる集団を構築
 - (3) グローバルリーダーとして異文化共生の精神を理解するために必要な海外研修の充実
 - ア NASA研修の実施と内容充実
 - イ オーストラリア語学研修の実施と内容充実
「国際交流に関する取り組みが充実している」(学校教育自己診断) 肯定率90%以上を維持 (R4:73.8%、R5:90.5%、R6:90.6%)
- 3 確かな学力を育成し、併せて国内外でホンモノと出逢う教育機会を提供することにより、生徒が自らのキャリアを描く力の育成
 - (1) 第一線で活躍する研究者など斯界のトップランナーに触れる機会の充実
 - ア 三丘セミナー、体感校外学習、NASA研修(SSH事業)、実践科学実験の充実
 - イ 京都大学キャンパスガイド、大阪大学ツアー、SSH東京方面体感学習、大阪大学医学部体験を含む大学訪問や医療系体験学習等の機会の充実
「三丘セミナーや大学見学、医療体験などは役立っている」(学校教育自己診断) 肯定率90%をめざす (R4:86.4%、R5:87.3%、R6:89.1%)
 - (2) 3年間を見通した進路指導プログラムに沿った進路指導・キャリア教育の充実
 - ア 進路講演会・懇談会・進路交流会・進路ホームルーム等を充実し進路指導部と各学年が連携した進路指導・キャリア教育を展開
「進路情報提供や進路交流会開催など適切な進路指導を行っている」(学校教育自己診断) 肯定率90%以上を維持 (R4:92.4%、R5:92.4%、R6:93.2%)
「学校生活を通じ将来の生き方を考える様々な機会がある」(学校教育自己診断) 肯定率90%以上を維持 (R4:86.1%、R5:90.5%、R6:90.8%)
 - (3) 高い志の獲得と希望進路実現
 - ア 質の高い授業及び信頼関係に基づいた適切な進学指導により第一志望を貫き希望進路実現をめざすスタンスを徹底
 - イ 進学講習及び実践的科学実験など高い志の実現のために学習意欲を喚起する取組を充実
5大学(東大・京大・阪大・神戸大・大阪公大) + 医学部医学科合格率55%以上をめざす (R4:53.5%、R5:40.4%、R6:32.9%)
- 4 機動的な学校運営体制を一層充実させ、教職員の弛まぬ資質・能力の向上に取り組み、様々な活動の充実・活性化を図る
 - (1) 機動的な学校運営体制の充実
 - ア 教職員間の情報共有をより一層推進するとともにすべての教職員が学校運営の主要な局面の判断に主体的に関与できるシステムを構築
 - イ 教職員が働きやすく意欲的に取り組める職場環境を整備
 - ウ 安全衛生委員会の毎月開催と教職員の働き方改革の推進
「学校経営に、教職員の意見が反映されている」(学校教育自己診断・教職員) 肯定率80%以上をめざす (R4:70.4%、R5:82.5%、R6:73.3%)
「学校は、教職員が意欲的に取り組める環境にある」(学校教育自己診断・教職員) 肯定率90%をめざす (R4:88.9%、R5:87.5%、R6:82.2%)
 - (2) 教職員の資質・能力の向上
 - ア 授業力、進路指導力、生徒指導力、保護者対応力、人権に関する知識と指導力・対応力等を教員力と位置づけ、その向上を図る
 - イ 教員による自主的な研修会や校長・教頭による校内研修を充実させ教職経験年数の少ない教員の教員力を向上
 - ウ 教員がカウンセリングマインドを持って生徒と接するとともに教育相談体制を整備し生徒支援を充実
 - エ 三丘生としての自覚のもと生活を自己管理し、指示を待たずに主体的に判断して行動できる生徒の育成
「満足できる授業が多い」(学校教育自己診断・生徒) 肯定率85%以上をめざす (R4:77.1%、R5:81.9%、R6:85.6%)
「悩みや不安を抱えた時、必要に応じて教育相談やカウンセリングを受けることができる」(学校教育自己診断・生徒) 肯定率80%以上をめざす (R4:68.0%、R5:72.9%、R6:74.7%)
「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」(学校教育自己診断・生徒) 肯定率75%以上をめざす (R4:58.3%、R5:66.3%、R6:72.6%)
「生活指導における先生方の指導は適切である」(学校教育自己診断・生徒) 肯定率80%以上をめざす (R4:75.4%、R5:78.7%、R6:76.8%)
「人権、環境、福祉について学習する機会がある」(学校教育自己診断・生徒) 肯定率80%以上をめざす (R4:62.9%、R5:62.6%、R6:86.5%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒】 全23項目中13項目で、この5年間で最も高い肯定的意見の割合を示していることから、今年度は生徒の評価が大幅に向上したと言える。 さらに詳しく分析すると、肯定的意見が85%を超えた項目数は、令和5年度が11項目、令和6年度が15項目、今年度は17項目と毎年増加していることがわかる。「生活指導における先生方の指導は適切である」や「担任の先生等、相談できる先生がいる」が新たに85%を超えた背景には、教員と生徒のコミュニケーションが良好であることが挙げられる。 また、「学校の施設設備は、学習環境として適切である」の肯定的意見が増えた理由としては、府の美化化事業や130周年記念事業による更衣室等の改修が挙げられる。</p> <p>【保護者】 「スタディツアーや海外からの訪問など国際交流に関する取り組みが充実している」という項目の肯定的意見が、新たに85%以上となった。 このことは、2年生が、コロナ禍以降はじめてとなる台湾修学旅復活を成し遂げたことや、NASA、フィリピン、オーストラリアといった海外研修などの充実がその要因と考えられる。また、全項目中最も高い肯定率を示したのは「学校はグループウェアなどのICTを活用している。」であり、これについては、生徒への連絡や欠席遅刻連絡のためのツールとして日常的に活用していることが影響していると思われる。</p> <p>【教職員】 「学校では、教員間で、授業方法等について検討する機会がよくある」という項目の肯定率が、過去5年間で最も高い値を示したことが特徴的な結果となった。 これについては、授業見学週間の倍増やレジェンド教員研修、首席による授業づくり研修など多様な自己研鑽の場を提供したことが大きく影響していると考えられる。</p>	<p>第1回学校運営協議会（7月1日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 受験指導について 生活習慣の確立を意識しながら、中間層への指導を強化する方針に賛成 ○ 不登校生徒への対応について 早期から管理職を含むチームで対応していることは評価できる ○ 探究活動における生成AIの活用について 適切かつ積極的に活用する方向性を持つべきではないか ○ 授業満足度について 授業満足度が高いレベルで向上しているのは研修充実の成果なのでは <p>第2回学校運営協議会（10月14日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ SSHやSGHの活動について SSHやSGHを通じた探究活動が主体的な学びに繋がるようにしてほしい ○ 学校説明会の在り方について 学校説明会は、中学生が将来の自分像を描けるようにすることが重要であることから、生徒を前面に置いた三国丘高校の学校説明会の在り方は、理に適っていると見える <p>第3回学校運営協議会（2月3日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今後のSSH事業について SSH発展Ⅱ期の承認を得られるよう、全校を挙げて頑張ってほしい ○ 土曜授業から土曜活用への移行について 生徒が土曜日を有効に活用できるよう具体的な検討を進めてほしい ○ 学校教育活動に対する経済的支援について 学校教育活動全般について、同窓会も支援したいと考えているので、要望があれば検討していきたい

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 自ら課題を発見し豊かな創造性と論理的思考力を持って解決策を探る力の育成	(1) 学校設定科目「CS (Creative Solutions) I」及び「CS (Creative Solutions) II」の充実	ア 探究学習に関する高い授業満足度 ・先進校の探究活動について研究 ・SSH第3期中間評価を受けた課題整理 ・学校外のコンクール等への積極的参加 ・Scool Information Meeting(生徒研究発表中心の学校説明会)の改善と広報活動充実	ア 「CS I」及び「CS II」満足度90%以上 [92.5%] Scool Information Meeting(生徒研究発表中心の学校説明会)参加者数増 [300人]	ア 満足度93.9% 参加者600人 ◎
	(2) 生徒主体の活動を充実することにより自ら課題を発見し解決策を探る力を育成	ア 文化祭、体育祭等すべての生徒会主催行事及び部活動を生徒会主体で企画・運営させるなど生徒自治を徹底する。 ・生徒主体の行事運営の徹底 ・生徒の創意工夫を活かした体育祭の企画・運営 イ 教科指導を含む教育活動全般の中で三丘スピリットに謳われている「自主自立」の重要性を指導 ・生徒の主体性を尊重した生徒指導 ・生徒が自らの学力を把握できる指導	ア 「文化祭、体育祭や部活動において生徒は自主的に活動している」(学校教育自己診断) 肯定率90%以上 [95.2%] 体育祭を堺市立体育館開催に変更後の生徒対象アンケートにおいて肯定率90%以上 イ 「自主自立(自律)を尊重する伝統は活かされている」(学校教育自己診断) 肯定率85%以上 [85.7%]	ア 肯定率95.7% ◎ 体育祭肯定率100% ◎ イ 肯定率90.9% ◎
		ウ 生徒が主体的に運営する部活動を通じて課題を発見し協働して解決する力を育成 ・理系3部(理化・生物・天文)の研究活動促進 ・音楽系部活動を中心とした地域連携の促進 ・部活動の一環としての学校広報活動の展開	ウ 入部率95%以上 [102.0%] 部活動地域連携回数3回以上 [3回] 部員の学校説明会参加2回以上 [2回]	ウ 入部率103.6% ◎ 地域連携3回 ◎ 参加回数2回 ◎

府立三国丘高等学校

<p>2 社会の様々な事象に対して当事者意識を持ち、異文化共生の精神を理解した上で 他者と協働できる人材の育成</p>	<p>(1) 異文化理解の基礎となる「4技能を育成する英語授業」の実践</p> <p>(2) 社会の様々な事象に対して当事者意識を持つことをめざした教育の充実</p> <p>(3) グローバルリーダーとして異文化共生の精神を理解するために必要な海外研修の充実</p>	<p>ア 英語科教員が協働して教材を開発するなど、4技能を育成する英語授業を構築 ・教員間の授業見学の促進 ・教材データ等の共有促進</p> <p>ア 人権・環境・福祉等に関する教育の充実 ・教職員人権研修の充実 ・生徒対象の研修・講義等の充実</p> <p>ア 米国リーハイ大学・国連研修再開に向けた調整 イ オーストラリア語学研修の実施と内容充実 ウ フィリピン研修の実施と内容充実 エ 諸外国から来日した高校生との交流など米国領事館や大阪観光局と連携した事業の実施と内容充実</p>	<p>ア 「コミュニケーション等に必要な英語を学ぶ機会がある」(学校教育自己診断) 肯定率80%以上(1,2年生) [86.0%]</p> <p>ア 「人権、環境、福祉について学習する機会がある」(学校教育自己診断) 肯定率80%以上 [86.4%]</p> <p>ア～ウ 「国際交流に関する取り組みが充実している」(学校教育自己診断) 肯定率90%以上 [90.6%]</p>	<p>ア 肯定率 85.5% ○</p> <p>ア 肯定率 81.3% ○</p> <p>ア～ウ 肯定率 91.5% ◎</p>
<p>3 確かな学力を育成し、併せて国内外でホンモノと出逢う教育機会を提供することに より、生徒が自らのキャリアを描く力の育成</p>	<p>(1) 第一線で活躍する研究者など斯界のトップランナーに触れる機会の充実</p> <p>(2) 3年間を見通した進路指導プログラムに沿った進路指導・キャリア教育の充実</p> <p>(3) 高い志の獲得と希望進路実現</p>	<p>ア 三丘セミナー、体感校外学習、NASA 研修 (SSH 事業)、実践科学実験の充実 ・三丘セミナーの内容充実 (研究者の積極的招聘) ・体感校外学習の内容充実 (第一線の研究に接続) ・NASA 研修実施時期変更と内容のグレードアップ ・ルーブリックによる定量的な評価 ・ホームページで「探究ハンドブック」を公開 ・ホームページで「実践科学実験教材集」を公開</p> <p>イ 京都大学キャンパスガイド、大阪大学スタディツアー、SSH 東京方面体感学習、大阪大学医学部体験を含む大学訪問や医療系体験学習等の機会の充実</p> <p>ア 進路講演会・懇談会・進路交流会・進路ホームルーム等の充実 イ 進路指導部と各学年が連携した進路指導・キャリア教育の展開 ウ 探究活動を通じて獲得した主体的に学び課題解決に取り組む姿勢を教科学習にも活かす取組 ・教科指導の在り方に関する検討 ・先進校の取組とその成果に関する調査</p> <p>ア 質の高い授業及び信頼関係に基づいた適切な進学指導により第一志望を貫き希望進路実現をめざすスタンスを徹底 イ 高い志を獲得する契機となる進学講習や実践的科学実験、探究学習などの取組を充実</p>	<p>ア・イ 「三丘セミナーや大学見学、医療体験などは役立っている」(学校教育自己診断) 肯定率90%以上 [89.1%] 「探究ハンドブック」「実践科学実験教材集」等、探究活動に関する情報発信 [4回]</p> <p>ア・イ 「進路情報の提供や卒業生との進路交流会開催など、適切な進路指導を行っている」(学校教育自己診断) 肯定率90%以上 [93.2%] 「学校生活を通じ、将来の生き方を考える様々な機会がある」(学校教育自己診断) 肯定率90%以上 [90.8%]</p> <p>ウ 授業公開期間の倍増(2週間以上) [1週間]</p> <p>ア・イ 5大学(東大・京大・阪大・神戸大・大阪公大) + 医学部医学科進学率55%以上 [32.9%]</p>	<p>ア・イ 肯定率 91.0% ◎ 情報発信3回 (校長ブログ以外) △</p> <p>ア・イ 肯定率 94.8% ◎</p> <p>ウ 公開期間2週間 ○</p> <p>ア・イ 44.8% △</p>

府立三国丘高等学校

4 機動的な学校運営体制を一層充実させ、 充実・活性化を図る 教職員のたゆまぬ資質・能力の向上に取り組み、 様々な活動の	(1) 機動的な学校運営体制の充実	ア	教職員間の情報共有をより一層推進するとともに、すべての教職員が学校経営の視点を持って業務を推進することをめざす	ア	「学校経営に、教職員の意見が反映されている」(学校教育自己診断・教職員) 肯定率80%以上[73.3%]	ア	肯定率 73.8%	△
		イ	特に緊急時にあつては管理職と教職員の連携を緊密にし、時宜を逃さない対応を心掛ける	イ	「学校は、教職員が意欲的に取り組める環境にある」(学校教育自己診断・教職員) 肯定率90%以上[82.2%]	イ	肯定率 88.1%	△
		ウ	働き方改革を進め超過勤務時間の縮減を図るとともに、教職員が業務に意欲的に取り組める職場環境を整備する。その一環として部活動指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を縮減する。	ウ	教職員一人あたりの超過勤務時間数で前年度より5%削減をめざす。 [426時間]	ウ	超過勤務11.3%削減 378時間	◎
		エ	安全衛生委員会の毎月開催	エ	安全衛生委員会の毎月開催[12回]	エ	12回	○
		オ	安全衛生委員会の毎月開催	オ	安全衛生委員会の毎月開催[12回]	オ	12回	○
	(2) 教職員の資質・能力の向上	ア	授業力、進路指導力、生徒指導力、保護者対応力、人権に関する知識と指導力・対応力等を教員力と位置づけ、その向上を図る	ア	「人権、環境、福祉について学習する機会がある」(学校教育自己診断・生徒) 肯定率70%以上 [86.4%]再掲	ア	肯定率 81.3%	○
		イ	三研究会や校長・教頭による校内研修を充実させ教職経験年数の少ない教員の教員力を向上	イ	「学校は、教職員が意欲的に取り組める環境にある」(学校教育自己診断・教職員) 肯定率90%以上[82.2%]再掲 「満足できる授業が多い」(学校教育自己診断・生徒) 80%以上[85.6%]	イ	肯定率 88.1% 肯定率 88.9%	△ ◎
		ウ	教員がカウンセリングマインドを持って生徒と接するとともに教育相談体制を整備し生徒支援を充実 ・生徒対応に関する実践的研修会の開催	ウ	「悩みや不安を抱えた時、必要に応じて教育相談やカウンセリングを受けることができる」(学校教育自己診断・生徒) 肯定率75%以上[74.6%] 「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」(学校教育自己診断・生徒) 肯定率70%以上[72.4%]	ウ	肯定率 72.5% 肯定率 74.0%	△ ◎
		エ	三丘生としての自覚のもと生活を自己管理し、指示を待たずに主体的に判断して行動できる生徒の育成	エ	「生活指導における先生方の指導は適切である」(学校教育自己診断・生徒) 肯定率80%以上[76.8%]	エ	肯定率 87.6%	◎
		オ	三丘生としての自覚のもと生活を自己管理し、指示を待たずに主体的に判断して行動できる生徒の育成	オ	「生活指導における先生方の指導は適切である」(学校教育自己診断・生徒) 肯定率80%以上[76.8%]	オ	肯定率 87.6%	◎